論文の内容の要旨および論文審査の結果の要旨

学位申請者氏名：豊田　保　　学 位 の 種 類：博士（保健福祉学）
学 位 記 番 号：博（健）乙第 9 号　　学位授与年月日：平成 26 年 3 月 14 日
審　査　委　員：主査　高崎健康福祉大学教授　相澤　與一
高崎健康福祉大学教授　渡辺　俊之
高崎健康福祉大学教授　安達　正嗣

論文題目

福祉コミュニティの形成に寄与する市民の自発的福祉活動の意義についての研究

論文審査の結果の要旨

豊田は序章の冒頭で、「本論文は市民の自発活動の意義に関して著した数本の小論文に、一部加筆訂正して一つの論文としてまとめたものである」と紹介している。指導教員の相澤は、豊田の「数本の小論文」を串刺しにして統一し、新たな知見を書き加えるよう指導し、豊田論文はこの要請に相当程度応えた。

本論文のまとめは、序章と終章で行われている。それを序章からの引用を交えて要約すればこうなる。福祉は措置から契約へと転換したが、行政による福祉の必要は依然大きい。しかし、それでは満たされない地域社会の問題・課題とニーズも増大したために、福祉への「市民の関心が広がり、市民が直接的に福祉活動へ参加する度合いが発展して来た」。「その原動力や背景は」、「結論的に述べるならば、市民自らが福祉活動に参加することによって、地域社会に存在する生活課題を自らの力で解決し、より良い市民生活の実現を図ろうとする市民の直接民主主義的な考えと行動の発展ではないかと理解できる。いわば、福祉分野における直接民主主義的動向の強まりである」とまとめている。これはこれで問題への積極的な解答として十分評価できるし、重要な貢献である。

ただし、この側面は強い影への社会的な反作用として生起している要素も大きい。近年の新自由主義的な経営と政治は、雇用と生業を劣化させ、一家総働き化を強い、それと相関して少子高齢化が急進し、社会保障・社会福祉へのニーズが急増しているのに、新自由主義的な経営と政治はもともと「小さな（福祉）国家」だった日本の公的負担の更なる縮小を強め、「公助」を縮小し個人と家族と地域の「自助」と「共助」の拡大を強いているために、地域住民と当事者集団が生き残りをかけた自衛として「自主的」福祉活動を展開させられている側面も大きい。強いられがちな福祉への直接参加を地域での直接民主主義の機会と力に変換させることが課題なのである。豊田論文はその課題の側面、つまり肯定的側面に実証的に照明をあてることに貢献した。

豊田論文は、研究としては大方が未開拓に残されている標題のテーマについて、実証的

に事実を豊かに掘り起こしたこと、そしてそれを創造的に発展させる方向性を提示したことで高く評価される。よって豊田氏の本論文は、博士の学位論文として適格であると評価する。

以上により、論文審査および最終試験の結果に基づき、審査委員会において慎重に審査した結果、本論文が博士（保健福祉学）の学位に十分値するものであると判断した。

学力の確認の結果の要旨

本論文の審査を通して学位申請者の学力の確認を行ったところ、博士として十分な学識を有していることが確認できた。以上により、本学位申請者は博士課程を修了した者と同等以上の学力を有すると判断した。